

令和元年度第1回
都市町村協議会議事速記録

令和元年 11月 21日 (木)
於・都庁第一本庁舎7階大会議室

令和元年度第1回都市町村協議会議事速記録

令和元年 11 月 21 日（木）

17 時 02 分 ～ 18 時 13 分

於・都庁第一本庁舎7階大会議室

〔開 会〕

○事務局長（佐藤行政部長）

ただ今から令和元年度第1回都市町村協議会を開催いたします。

私は、事務局長を務めております行政部長の佐藤智秀と申します。どうぞよろしく願いいたします。

出席者のご紹介につきましては、お手元に配付いたしました座席表で代えさせていただきます。

では、議事に先立ちまして、会長でございます小池知事からご挨拶をいただきます。

〔挨 拶〕

○会長（小池知事）

皆様、こんばんは。本日は、都と市町村との協議の場でございます。ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から都政の運営に対しまして、大変ご協力いただいておりますことに、改めて御礼を申し上げたく存じます。

それから、先般の台風でございますけれども、風台風の後、雨台風ということと、さらに加えて大雨等様々、それぞれ皆様方の地域で爪痕を残したことかと存じます。心からお見舞いを申し上げます。また、台風の被害の復旧・復興等、補正予算を発表させていただいたところでございまして、今度の12月四定にて、ご審議いただくこととなっております。

一方で、ラグビーワールドカップ。多摩の地域でも大変盛り上がり、日本12カ所で大会会場がございましたので、大変な盛り上がりを見せたところでございます。この流れを来年2020大会へとつなげてまいりたいところではございますが、いろいろ皆様方にもご心

配をいただいていることも多々ございます。しっかりとこの2020大会、オリンピックもパラリンピックも成功に導くためにも、皆様方のご協力、よろしくお願いを申し上げます。

それから、先週開催されました「多摩の超文化祭」、それぞれ多摩の皆様方に農産品などお持ちいただき、大変な賑わいとなりました。多摩の食材を活用いたしましたメニューも試食させていただき、多摩の魅力、自然、歴史、文化などなど、多面的な宝物に触れさせていただき、また、島しょ地域でも同じように、景観、海洋資源、特産品、文化などなど、またPRをしっかりさせていただきたいと考えております。

皆様方にもお伝えいたしておりますように、長期戦略、長期ビジョンの策定に取りかかっているところでございまして、様々な観点から、皆様方のこれから未来に向けてのビジョンなどについても伺わせていただいたところでございます。

さらに、最近の東京都としての大きな試みといたしまして、TOKYO Data Highway、今、4Gでございしますが、5Gに向けての様々な整備をしっかり行っていこうということでございます。例えば、先日、奥多摩町のほうで孤立した集落で車が通れないところに、ドローンを使いまして、山で見えないのですけれども、目視外飛行という形で、まだ小さなパッケージではございましたが、それで物資輸送を行わせていただきました。これからの情報通信をより快適にすることによって、東京が世界における競争力を失わないためにも、こういった分野につきましてもさらに研ぎ澄ましていきたいと考えております。

今日、意見交換をさせていただきますが、今もお話しさせていただいた「東京のデジタルトランスフォーメーション」ということにフォーカスさせていただき、皆様方と意見交換をし、また、これについては連携を深めていきたいと考えておりますので、この点につきましても具体的なお話をさせていただこうと思います。

ご遠方からもお越しいただきました。せっかくの機会でございますので、よい意見交換の機会となりますように、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。誠にありがとうございます。

○事務局長（佐藤行政部長）

続きまして、市長会を代表いたしまして、市長会会長の立川市長、清水委員からご挨拶をいただきたいと思います。

○清水委員（東京都市長会会長・立川市長）

市長会会長、立川市長の清水でございます。市長会を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

小池知事をはじめ、東京都の皆さんにおかれましては、日頃から大変多くのご支援を頂戴しておりまして、格別なお力添えに感謝をしているところでございます。厚く御礼を申し上げます。

多摩地域の26市は、東京都との緊密な連携のもとに、市民の暮らしに直結する様々な問題解決に取り組んでおるところでございますが、行政ニーズは、私が申し上げるまでもなく、複雑化、多様化する一方でありまして、行政需要は年々増加の一途をたどっているという状況であります。他方、地方法人課税における新たな偏在是正措置あるいはふるさと納税制度による市民税への影響の深刻化、各種の行財政運営を取り巻く環境は、一層厳しさを増しているところでございます。このほか多摩地域では、区部に比べて遅れている道路・交通ネットワーク整備をはじめとして、トンネルや橋梁などの都市インフラの更新、大規模団地の再生、大規模事業所の撤退への対応など、様々な課題への対応が求められております。

本日は、後ほど来年度の予算編成に対する要望についてもご説明させていただきますので、多摩地域の置かれた厳しい状況をご賢察の上、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

また、今年は、先ほど知事から言及のありましたラグビーワールドカップが開催され、日本代表の活躍で大変盛り上がりました。来年はいよいよオリンピック・パラリンピックの開催となるわけですが、この2つの世界的なスポーツイベントを契機として、多摩地域の更なる活性化につなげてまいりたいと考えております。重ねて、ご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。本日は、ぜひとも知事をはじめとした東京都の幹部の皆さんからの率直なご意見を伺いまして、多摩地域の更なる連携の強化・発展につなげてまいりたいと考えております。

最後になりますが、本日のこの協議会が実り多きものとなりますことをご期待申し上げ、あるいはまたお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○事務局長（佐藤行政部長）

続きまして、町村会を代表いたしまして、町村会会長の奥多摩町長、河村委員からご挨拶

拶をいただきたいと存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

○河村委員（町村会会長・奥多摩町長）

町村会会長の奥多摩町長の河村でございます。多摩 13 町村を代表いたしまして、日頃から小池知事をはじめ、都の職員の皆様方に行財政運営を含めたご指導を賜り、大変ありがとうございます。

今日は、後ほど、令和 2 年度の予算編成に対する要望をさせていただき、43 項目にわたる重点事項あるいは 7 項目にわたる最重点要望事項等をご説明させていただければと思っております。

先ほど知事が若干触れましたが、今年は自然災害の多い年でございます。8 月の九州北部の豪雨、9 月には台風 15 号、また 10 月には台風 19 号と 21 号というように、記録的な雨が島しょ地域あるいは東京都も含めて降りました。そういう中で、全国的に河川の氾濫あるいは土砂の崩壊等がございました。特に私たちの町村では、台風 15 号、19 号、21 号で大島町、新島村、利島村などの町村が非常な強風や暴風雨で大変な被害を受けました。集落の孤立や断水、停電等を含めて、特にインフラである道路が相当数被害を受けました。

この災害では早速、小池知事は 9 月 15 日に島しょ地域に入らせていただいて、大島町、新島村の現場を見ていただいているので、内容等をご承知だと思います。私も大島町と新島村に入らせていただきました。小さな町村財政の中では、本当にこれからどうしていくのかというのが、それぞれの町村長の胸の内ではないかと思っております。そういう点では、知事に見ていただいた分を含めて、今後、財政支援あるいは人的な支援を含めて、ご支援をお願いしていきたいというふうに思っております。

また、私ども西多摩地域においても、日の出町の道路の崩壊あるいは檜原村の道路の崩壊、私どもも都道 204 号日原鍾乳洞線が崩落してしまいました。檜原村においては隣に石灰石の工場があったものですから、これをいち早く村長が村で借り受けて、迂回路を作ったという状況でございます。また、日の出町では西多摩建設事務所を含めて、住民の皆さんが早く道路が通れるようにということで、現在、仮設を含めてバスが運行できるという状況でございます。

私どもの町では、知事に現場を見ていただき、また、72 人の 45 世帯がいる日原に入らせていただきまして、住民との対話も含めて、ある意味では知事の顔を見て、地域の住民も安心したのではないかと思っております。残念ながら、仮設道路とはいかないものですから、今日も西多摩建設事務所の所長以下、幹部の皆さんが来て、これからの工程について

ご説明を受けました。急峻な地域ですから、なかなか仮設ということにはいかないのかと
いうことで、今後、地域の皆さんが一刻も早く普通の生活に戻れるようお願いしたと
ころでございます。それまでの間は、住民の皆さんが両方から歩いて渡って、マイクロバス
で1日5回という状態を繰り返しております。あるいは大きな荷物については架線等がで
きましたので、この問題も解決できるのではないかと思います。

いずれにいたしましても、知事が現地に入っていたことによって、いろんな意味
で地域の住民の安心、あるいは都の職員の皆さんが地域のために一生懸命やるというこ
とを感じ取ったところでございます。ぜひそういう点で、今後もスピーディーに災害復旧に
当たっていただければ大変ありがたいと思います。

それから、その時に感じたのでございますけれども、災害が起きると、それぞれの町村
はある意味では契約以前に、ある土砂を掃かなきゃいけない、地域の道路が通れなきゃい
けないということで緊急に対応をいたします。そういう点で国でも今、前払金の問題の検
討を始めているようですが、仕事をやってもらったけれども、金は予算を組んでから払わ
ななきゃいけない。この部分はいかがなものかということで、できればそういう緊急時にす
ぐにお金が支払えるような基金を作っていただければありがたいと感じたところござい
ます。

いずれにしても、13の町村では人口の過疎化、少子高齢化が進んでおりますので、今後
とも13の脆弱な町村に対する財政支援、特に、後ほどまたお話をさせていただきますけれ
ども、市町村総合交付金については、前年度を上回るような形で手当をしていただければ
大変ありがたいと思います。

また、東京都においては、素早く補正予算の編成をしていただきました。この中には、
被害を受けた市町村に対し、25億円の特別交付金による財政支援も含まれております。こ
れも災害復旧のために有効に活用させてもらいたいと思っております。私ども町では、さ
っき申し上げましたように、業者にお金が払えるようにということで、既に1億9300万円
ほどの専決処分をさせていただきました。いずれにしてもそういう状況で、市町村総合交
付金を頼りにしている町村でございますので、今後、ご理解とご支援をお願い申し上げた
いと思います。

それから、東京2020オリンピック競技大会の機運醸成でございます。おかげさまで聖火
リレーは全市町村を回るという、我々が要望していることを実現させていただきまして、
それぞれのところではこれから2020に向かって、さらに機運の醸成を図ってまいりたい

と思っております。特に醸成をするに当たりましては十分な財源もないものですから、財源の話ばかりで申しわけありませんが、このご支援もよろしくお願い申し上げたいと思います。

いずれにいたしましても、知事がスピーディーにあちこち飛び回って、現場を見ながら自分の判断をスピーディーにさせていただいていることに感謝を申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

〔議 事〕

○事務局長（佐藤行政部長）

それでは、本日の議事に入らせていただきたいと思います。

議事の進行役は、副知事の多羅尾委員にお願いしたいと存じます。

多羅尾委員、よろしくお願いいたします。

○多羅尾委員（副知事）

それでは、以降は私が進行役を務めさせていただきます。

本日の議題は3件ございます。議案書はタブレットにございますので、タブレットをご覧ください。議案書の2ページにございます議案第1号「平成30年度都市町村協議会歳入歳出決算について」を議題といたします。

それでは、事務局長、説明をお願いいたします。

○事務局長（佐藤行政部長）

それでは、タブレットに格納されております議案書4/50ページをスクロールいただきたいと思います。

議案第1号「平成30年度都市町村協議会歳入歳出決算について」、ご説明申し上げます。

決算総額の内訳は、タブレットをスクロールいただきまして、6/50ページに記載のとおりでございます。

また、監査についてでございますが、福生市長の加藤委員と武市財務局長に監査委員をお引き受けいただいております。次の7/50ページにございますように、両監査委員に監査を行っていただいております。

議案第1号の説明は以上でございます。

○多羅尾委員（副知事）

ただ今事務局長から説明がありました件につきまして、何かご意見、ご発言がありましたらお願いいたします。

ないようでございますので、第1号議案につきましては、議案のと通りの扱いとすることとよろしゅうございましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○多羅尾委員（副知事）

それでは、そのように取り扱うこととさせていただきます。

なお、令和元年度決算の監査委員につきましては、従来からの慣行によりまして、市長会監事の多摩市長、阿部委員と財務局長にお願いをいたしたいと存じます。

次に、議案書7ページにございます議案第2号「令和元年台風19号などによる災害に関する東京都への緊急要望について」及び議案書の11ページにございます議案第3号「令和2年度東京都予算編成に対する市町村要望について」は、関連がありますので一括して議題といたします。本議題は、東京都予算に対する知事ヒアリングを兼ねて実施させていただきます。

まず、市側の要望につきまして、市長会会長の清水委員からご説明をお願い申し上げます。

○清水委員（市長会会長・立川市長）

はじめに、「令和元年台風19号などによる災害に関する緊急要望」について、市長会、町村会を代表いたしまして、私から説明させていただきます。

ご案内のとおり、先月襲来した台風19号、21号は、都内の市区町村においても甚大な被害をもたらしました。被災自治体においては、住民の生活再建及び復旧作業に全力で取り組んでいるところでありますが、住民生活や経済活動の早期復旧には、都による緊急かつ重点的な支援が必要不可欠であります。ついては、都におきましても必要な人的支援や財政措置を講じることを特別区長会、町村会、市長会の総意として強く要望いたします。

（清水委員、河村委員、要望書を知事に手渡す）

それでは、ただ今お渡しいたしました緊急要望の概要についてご説明いたします。

まずは、「被災者生活支援について」です。被災者生活再建支援法等に基づく各種支援制度を弾力的に幅広く活用できるよう、適用要件の緩和や支援の拡充等について、国への働きかけをお願いいたします。

次に、「公共土木施設等の災害復旧について」です。災害復旧事業の実施に当たって

は、原状回復にとどまらず、事前防災の視点等も取り入れた改良復旧をお願いいたします。とりわけ、都道の全面復旧を最優先の課題として取り組むことを要望いたします。

次に、「農地・農業用施設等の復旧について」です。速やかに復旧できるよう財政措置など必要な支援をお願いいたします。

次に、「地方交付税等の財政支援について」です。復旧・復興にかかる財政負担の急増に対処するため、特別交付税の確実な措置について国へ働きかけるとともに、都としても特別な財政措置を講ずるようお願いいたします。

次に、「住民の避難について」です。各自治体単独での避難誘導・避難所の確保には課題があることから、都有施設の活用や広域避難について検討するとともに、市区町村が検討する避難所運営について必要な支援を行うようお願いいたします。

次に、「災害時等における防災情報の発信について」です。住民が災害情報を確実に入手できるよう情報発信の改善を図るとともに、各市区町村の地域の実情に応じた取組について、財政措置など必要な支援をお願いいたします。

最後に、「多摩川水系における水防強化について」です。多摩川水系の各地で甚大な被害が発生したことを踏まえ、河川の管理体制や水防対応機能等を拡充するよう国へ要望するとともに、都においても必要な見直しを行うようお願いいたします。

要望は、以上7点です。

復旧・復興のため、早速補正予算のご対応をいただき感謝を申し上げます。今後とも引き続き、市区町村の置かれた状況をご賢察の上、特段のご配慮を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

続きまして、令和2年度の東京都予算編成に対する市長会要望についてです。最重点要望項目は大きく3点ございます。

まず、令和2年度の都の予算編成に当たって、多摩地域の振興をより実効性のあるものとするため、積極的な施策の推進と財政的な措置をお願いいたします。「多摩の振興プラン」で示された多摩の目指すべき地域像の実現に向け、各市との連携はもとより多様な主体とも十分連携を図り、多摩振興の取組を積極的に推進するようお願いいたします。あわせて「東京都長期ビジョン」の実現に向けて、多摩地域と区部における行政サービスの地域格差を是正する視点も踏まえるとともに、「新たな長期計画（仮称）」は、各市の意見を十分取り入れ、策定されるようお願いいたします。

また、市町村総合交付金につきましては、今年度も増額をしていただき感謝申し上げます。

す。しかしながら、市町村における行政需要は年々増加する一方でありますので、交付金の更なる拡充をお願いするとともに、市町村の自主性、特殊性にご配慮いただき、個別事情がより反映されるよう一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

都市基盤整備の積極的な推進については、幹線道路の早期整備や鉄道の立体交差化・複々線化の促進など、いずれも多摩地域の持続的発展に不可欠な事業であります。多摩都市モノレールの延伸については多摩都民の悲願でありますので、早急に事業化を図られるようお願いいたします。

次に、子育てについてです。本年10月から開始された幼児教育・保育の無償化に当たっては、国の責任において財源を確保するよう、都からの働きかけをお願いいたします。また、保育需要が喚起され、待機児童の増加が懸念されることから、保育の量の確保と質の向上を図るため、待機児童解消に向けての取組の一層の強化をお願いいたします。

2点目は、「防災事業の充実と財政措置について」です。今しがた緊急要望を提出させていただきました。我々も市民の安全を最優先に防災事業に取り組んでおりますが、引き続き都の支援の強化をお願いいたします。

最後に、「『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会』開催等を契機とした多摩地域の活性化について」です。2020大会やラグビーワールドカップを契機として、我々としても積極的に多摩地域の活性化を図ってまいりたいと存じますので、様々な分野の取組に対するご支援に加えて、大会後のレガシーにつながる取組についてもご支援をお願いいたします。

詳しい要望内容につきましては、3ページからなる「令和2年度東京都予算編成にかかる最重点要望事項」と冊子の「重点要望事項」を後ほどご覧いただければと存じます。いずれも多摩地域にとりまして切実な要望でありますので、特段のご配慮を賜りますよう、よろしくをお願いいたします。

説明は以上でございます。ありがとうございました。

○多羅尾委員（副知事）

次に、町村側の要望につきまして、町村会会長の河村委員からご説明をお願い申し上げます。

○河村委員（町村会会長・奥多摩町長）

東京都町村会では、重点要望を43項目にまとめさせていただきました。そのうちさらに最重点項目として7項目を、今日、ご説明させていただきたいと思っております。

まず、第1点でございます。脆弱な町村財政の一丁目一番地と言いますか、そういう点では、市町村総合交付金を毎年少しずつ積み上げをさせていただいておりますけれども、ぜひ令和2年度の予算についてもこの点についてご配慮をいただき、ご支援をいただければありがたいなというふうに思っております。

2点目でございますけれども、多摩・島しょ地域の振興、発展のためには、島しょ地域の交通手段の定着であるヘリコミの定期運航事業に対する財政支援の継続や、伊豆諸島北部地域を特定有人国境離島地域に加えるよう、引き続き国に強く働きかけをしていただきたい。南部地域、北部地域の格差が生じないよう一体的な振興策の推進をお願いしたいと思っております。さらには、小笠原空港の開設についても特段のご配慮をお願い申し上げます。

3点目は、防災対策でございます。島を含めて、噴火、地震あるいは大型台風や集中豪雨などが予想され、大規模災害の発生が危惧されておりますので、災害に対するきめ細かな財政支援をお願いしたいと思っております。

4番目は、福祉施策の推進でございます。へき地医療の人材確保の充実など、必要な施策の実施と更なる充実、また、町村における介護保険事業の実効性の確保などをお願いしたいと思っております。

過日、424の病院、特に東京都の中では8以上の公立病院と私ども奥多摩病院が、そのリストで公表されました。これはあくまでも厚生労働省が分析をした結果でございますけれども、住民はそういうリストが公表されたことによって非常に不安を持っております。そういう点で、不安をなくすような努力はもちろんしていかなければいけませんけれども、医師の確保等々含めて、へき地医療対策協議会で派遣していただいておりますが、この辺についても継続実施をしていく、住民の不安がなくなっていくようなことをぜひお願いしたいと思っております。

5番目は、農林水産業でございます。森林環境の維持、保全の財源の確保などを求めるものでございます。

森林が地球温暖化の防止など多様な機能を有することから、森林環境税を活用して林業労働者の確保、技術者の育成などを推進していただくようお願い申し上げたいところでございます。23区、26市、東京都も含めて森林環境譲与税が交付されることになりましたけれども、これまで、東京都には、西多摩地域の森林の間伐あるいは枝打ち等をしていただいております。そういう点で都道府県に配分される森林環境譲与税の使い道と言います

か、そういう点では西多摩地域の市町村が共同して、いろんな意味でその財源を山に返してくれと要望しております。こういう点も含めて内部調整をしながら、ぜひ山を守っていききたいというふうに思っておりますので、ご尽力を賜りたいと思います。

6番目は、住民生活を支えるインフラでございます。下水道事業の一元化に向けて、基本的な計画など必要な措置を講じていただければありがたいと考えております。

先を見ていきますと、下水道は非常にお金がかかる事業でございます。まして技術的なところというのは、町村では技術職員を持つことはできません。そういう点で短期的ではなくて、長期的なところを踏まえて、この辺についてもご検討いただきたいと思っております。

7番目は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でございます。これは東京都民の大きな願いで、ぜひ成功させたいという知事の気持ちと都民の気持ちは同じだと思いますので、こういう機運醸成を町村では一生懸命やっていきたい。しかしながら、若干お金がかかりますので、こういう部分に対する財政支援もお願いしていきたいということでございます。

いずれにいたしましても、13町村の税財政は非常に脆弱でございますので、令和2年度予算編成におかれましては、ご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げまして、要望の内容の説明とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

○多羅尾委員（副知事）

それでは、会長の小池知事からコメントをお願いいたします。

○会長（小池知事）

まず、先ほど令和元年台風19号などによる災害に関する緊急要望といたしまして、区長会、市長会、町村会から7つのご要望をいただいたところでございます。この緊急要望につきましては、冒頭にも申し上げました今般の台風被害の復旧・復興対応、今後の防災対策に向けて、前倒しでの実施が必要な施策に速やかに着手するために、今回、補正予算を組ませていただいたということで発表させていただきました。

この補正予算案では、防災対策の推進といたしまして、被災した市町村に対しての特別な支援、一部損壊住宅の補修工事を対象とした独自の補助制度の新設、それから、今回、停電が、あちこちで電柱に倒木などがあって、島しょの電柱が問題となり、かねてより進めてまいりましたが、なかなか進んでいなかった島しょの無電柱化を前倒しで行っていくなど、合わせまして134億円、債務負担行為といたしまして8億円を計上し、この補正予

算案としてまとめたとところでございます。これによりまして、防災対策の推進などスピード感を持って進めてまいりたいと存じます。

先ほどテレビを見ておりましたら、もうすぐ12月だというのに、台風27号が台湾のすぐそばにあって、本当にどうなっているのかと。どのようになるのか注視していきたいと思いますが、いずれにせよ補正予算案を組みまして、早急な復旧・復興、防災への備えを進めてまいりたいと思います。

また、今回の台風被害の状況を受けまして、各市町村の皆様方からのご意見も伺いながら、しっかりと検証もしてまいりたい、このように考えております。

多摩・島しょ地域は誠に広大でございます。地震、津波、土砂災害など、様々な地域特性があるわけございまして、ハードやソフトの両面からの適切な防災対策を展開いたしまして、都民の命を守るセーフシティの実現のためにしっかりと対応していきたいと考えております。

私のほうから続けて、令和2年度の予算編成に関する要望で、市長会、町村会から共通のご要望をいただいております。

市町村総合交付金の拡充、ずばりここになるわけでございますけれども、市町村にとりましては重要な財源補完制度であることは言うまでもございません。また、健全な財政運営などに大きく寄与しているものと認識いたしておりますので、今後とも地域の実情に即した効果的な支援ができますように努めてまいりたいと考えております。

それから、市長会、町村会の共通要望として、オリパラ関連のご要望もいただきました。大会を契機とした多摩地域の活性化について、東京2020大会が地域のスポーツ振興を加速させる絶好の機会であるというご指摘で、開催機運の盛り上げなど、大会を契機とした各市町村の取組が地域の活性化に資するものだと考えております。

都としまして、市町村のスポーツ振興に対しましては、ハードとソフトの両面から補助を行ってまいります。そして、身近な地域におきましても、誰もが楽しめるスポーツ環境の整備、障害者スポーツの振興にも取り組んできたところでございます。

市町村が主体的に実施されますコミュニティライブサイト、シティドレッシング、聖火リレー、ボランティアなどの大会関連事業でございますが、大会運営を支えます重要な取組でございますので、オール東京での盛り上げに寄与する、また、都といたしまして、この点を考えて積極的に支援を行っているところでございます。

加えまして、大会期間中ですが、東京スポーツスクエアを東京の魅力・情報発信の拠点

として活用いたしまして、国内外から東京を訪れますメディア、観光客、都民の方々に対して都内の産業や観光の魅力を伝えまして、世界へ発信する拠点といたしたいと思っております。これは有楽町のほうでございます。

東京 2020 大会の成功に向けては、市町村の皆様方と連携しながら取組を進めてまいります。そして、このことがまた多摩地域の活性化にもつながってくることと存じます。

さらに、町村会から聖火リレーの出発式、ミニセレブレーションなど、機運醸成のための財政支援についてのご要望をいただいたわけでございます。2020 大会の開催に向けて、各町村が都民と一体となって行います機運醸成の取組は重要でございます。そのために都は、町村が主体的に実施されます聖火リレーの機運醸成などについて補助を行いますので、積極的に支援を行いたいと存じます。引き続き各町村と連携しながら、大会を盛り上げまして、より多くの都民の方々に楽しんでいただいで、ぜひともこの大会の成功に皆さんのお力を合わせていただきたく存じます。

私からは以上でございます。あとは局長のほうからお答えさせていただきます。

○多羅尾委員（副知事）

それでは、総務局長の遠藤委員のほうからコメントをお願いいたします。

○遠藤委員（総務局長）

総務局長の遠藤でございます。本日はありがとうございます。

私のほうからは、大きく2点についてお話をさせていただきます。

1つは、市長会から多摩の振興プランの実現についてのご要望をいただいたところでございます。多摩の振興プランに基づきまして、多摩振興の取組を積極的に展開していくとともに、市町村の自主性、自立性の向上に資する行財政支援や多摩地域における広域連携の支援等を行いながら、多摩地域が魅力的な地域になるよう、市町村の皆様方と連携いたしまして、積極的に取り組んでまいります。

また、長期戦略の策定に向けましては、先般、知事と各市町村長の皆様方との意見交換を実施したところでございます。伺いましたご意見、ご要望等を踏まえながら、引き続き検討を進めてまいりたいと考えております。

町村会からご要望いただきました島しょ地域の振興や、住民の生活路線としてのヘリコプターでございます。このヘリコプターの重要性は十分認識しておりまして、引き続き支援に努めてまいりたいと考えております。なお、その運航につきましては、住民の皆様が安心してご利用いただけるよう、運航事業者に対し安全確保の徹底を要請してま

います。

なお、伊豆諸島北部地域については、特定有人国境離島地域に加えるようこれまでも提案しておりましたが、引き続き国に提案をしてみたいとして、伊豆諸島全域の一体的な振興にしっかりと取り組んでみたいと思います。

いずれにいたしましても、そのほかいただきました市長会、町村会からの要望事項につきましては、私どものほうから関係局にも伝えまして、しっかりと検討してみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○多羅尾委員（副知事）

それでは、このほか委員の皆様から何かご意見、ご発言等ございましたら、お願いいたします。よろしゅうございますか。

それでは、お時間の都合もありますので、本議題についてはこの辺りにさせていただきたいと思います。

最後に、会長の小池知事からコメントがありましたらお願い申し上げます。

○会長（小池知事）

市長会、町村会、区長会、それぞれ連名によります今回の台風災害の緊急要望をいただきました。本日、皆様方からお話いただきました内容も踏まえまして、更なる防災対策の充実・強化に努めてみたいと思います。

令和2年度の予算編成についてのご要望につきましても、我が国の経済は緩やかな景気回復が続くことが期待されておりますけれども、歳入の根幹をなします都税収入でございますが、令和元年度税制改正における影響など、その先行き予断を許さない状況にあります。また、国際情勢一つとりましても、大変予断を許さないような状況が各地域、欧州であったり、米中であったり、幾つかの課題もございます。こういう中にあるわけですが、強固な財政基盤の構築に努めながら、個性ある多摩・島しょ地域の発展のために、今日伺いましたご要望について十分検討してみたいと考えております。

ありがとうございました。

○多羅尾委員（副知事）

ありがとうございました。これにて本議題は以上とさせていただきます。

本日、予定された議案は以上のとおりでございます。

〔意見交換〕

○多羅尾委員（副知事）

次に、意見交換に移らせていただきたいと思います。

本日のテーマは、「東京のデジタルトランスフォーメーション」でございます。

本件につきまして、副知事の宮坂委員から説明をお願いいたします。

○宮坂委員（副知事）

それでは、よろしく申し上げます。私のほうから約10分ほど、東京のデジタルシフトとか、デジタルトランスフォーメーションと最近よく言われていますけれども、これについて皆さんと少し共有したいと思います。

デジタルトランスフォーメーションというのは、この数年、急に使われ始めた言葉であります。これまでデジタル化というのはよく言われていました。イメージで言いますと、昔、ビデオテープでビデオを見ていたものがDVDになる。これは一種のデジタル化ですね。それが今はオンライン上でいろんなオンラインのビデオサービスを見たり、YouTubeでビデオを見たりと。これまではビデオを借りてきたり、買ってきたりして見ているような生活が、家にいながらいつでも見られる。つまり、ライフスタイルそのものが変わってしまうようなことが起きている。こういうのをよくデジタルトランスフォーメーションという言い方をします。

そういった意味で、今、紙にあったものがデジタルになるとか、それだけでなく、生活のライフスタイルとか、街のあり方そのものが変わる。こういった時に、近年、よくデジタルトランスフォーメーションという言い方をされているわけであります。

ちなみに、略す時はよくDXと書かれます。トランスフォーメーションを海外ではXと呼ぶそうです。最初、DTじゃないのかと思いましたが、DXと書いてデジタルトランスフォーメーションと呼ぶそうで、国のほうでも、経済産業省のほうですごく推していらっしやいます。

東京はまさにデジタルトランスフォーメーションをしなければいけないと思っているわけですが、最初に平成の振り返りを少しだけしたいと思います。

50ページのうち22ページ目のところの、人がたくさん写っていらっしやる写真がございます。これは2005年のローマのバチカン広場の前で、新しい教皇様が誰になるのか、待っていらっしやる写真です。これが2005年当時です。

この後に2007年にiPhoneが発売されて、次のスライドですが、2013年にもう一回、同

じような出来事がありました。全く同じ出来事で、同じ広場の写真ですけども、やはり2005年の時と2013年は全然違う世界になっているのです。要するに、皆がスマートフォンを、手のひらのインターネットを持って世界中がつながってしまったということが、この平成の間に起きた最大の出来事ではないかと思っています。

ちなみに、昨年、インターネット利用者がついに世界の人口の半分以上を超えたという統計を、この前、見ました。これまでもいろんなテクノロジーの道具はありましたが、多分テレビにしても、世界の人口の半分は持っていらっしやらない可能性が高いと思います。インターネットというのは、ひょっとすると初めて人類の半分以上の人が手に入れた共通の道具になっている、共通の基盤になっている可能性があつて、だからこそ、これだけ世界中のいろんなレベルで大きな変化が起きているのではないかと思っています。

次の50ページのうち24ページ目は、そういう大きな変化がある中で、マーク・アンドリーセンという、ブラウザというものを発明された方が、2012年に「ソフトウェアが世界を飲み込む」という論文を「ウォール・ストリート・ジャーナル」に書かれたのです。これはどういうことかということ、音楽のCDを売っていた会社さんは、iTunesのようなソフトウェア会社になっていくし、小売の会社はどちらかというアマゾンのようなソフトウェア会社になっていくし、そういった形でありとあらゆるサービスが、ビジネスにおいてはソフトウェア企業によって塗り変えられていくということを書かれています。

次の25ページは、平成元年と平成30年の世界の時価総額ランキングを比べた表でございませう。この表が出た時に、元年は日本企業がいっぱい並んでいるけれども、30年は日本企業がなくなったなというのをよく言われますけれども、もう一方で言えることは、平成30年のピンクで塗っているものは全てソフトウェア企業なのです。ソフトウェアで飲み込んでいった側の企業が、平成30年の世界のトップテンのうちの7社を占めているということで、まさに世界中がインターネットでつながり、ソフトウェアによって世界がどんどん書き換えられていった時代というのが、この30年に起きた最大の変化ではないのかなと私は思っています。

そういった中で、時代も大きな転換点、令和ということで、27ページでございませうが、これから何なのだろうかと思いますと、今度はビッグデータと言われるデータが非常に重要になるのではないかと思っています。もはやインターネットに世界の半分以上の方がつながっていらっしやいますので、データは膨大に生まれてきます。このデータを使ってどのようにお客様のサービスとか行政サービスをするのかということに、争点がどんどん

移ってきているのではないかと考えております。

次の 28 ページでございます。いろんなビジネスで教育とデータを組み合わせで edutech とか、金融とデータを組み合わせで fintech とか、今、何とかテックという言葉がすごくよく聞かれると思うのですが、いよいよ都市とデータをどう組み合わせていくのかということが、今まさに始まろうとしているのではないかと考えています。

次のスライドでございますが、都市におけるデータの利活用をいよいよ始めるタイミングに来たのではないかと考えております。

次の 30 ページ目、21 世紀はデータ利活用を都市間で争うような時代になるのではないかと。どの街が上手にデータを使って都市とか行政をマネジメントしているのかという競争になると考えております。

31 ページ目でございますが、既に始まっているところもございます。中国の杭州という街では交通の情報を全部データで解析して、信号の制御とかをされるそうです。それによって渋滞の数を物凄く減らしているというケースとか、こういったことも既に始まっております。

次の 32 ページ目は、カナダのトロントの事例でございます。新しくトロントに作っている再開発のエリアは、いろんなところにセンサーを埋め込んでいまして、交通とか、騒音とか、エネルギーの使用量とか、全てをデータで集めて、データを使って都市をマネジメントする。こういった研究が今どんどん行われています。

33 ページで、いよいよ東京というか日本の都市も、こういったデータを使った街にしようと考えています。

そのために、やるべきことがあります。34 ページ目でございますが、やはり 2 つのステップがあると考えておまして、まず、つながる街にしないといけない。つながらないことにはデータが集められないのです。2 つ目は、つながった街で集まったデータをデジタル人材で活かしていく。そういった街にしていくべきではないかと考えております。

次の 35 ページ目、まず、つながる街ということについてお話しします。

36 ページでございます。これは先日、知事が発表されました TOKYO Data Highway ということで、今始まったものであります。世界最高のモバイルインターネット網を東京のエリアに引き詰めていこうということを考えている取組でございます。

特に、今 5G が世界で一番ホットになっておりますので、これに負けないように、5G のネットワークを引いていきたい。加えて、観光客の方は Wi-Fi を使われることも多いで

すし、場合によっては、エネルギーをもっと使わないタイプの電波を使ったほうがいいケースもありますので、電波の種類はいろいろありますけれども、5Gを中心としたありとあらゆる電波を適材適所で使って、東京中を電波で包み込んでいくようなインフラを作っていこうというのが、このTOKYO Data Highwayでございます。

次の37ページ目でございます。1964大会のレガシーは、新幹線とか地下鉄のような、ある種、目に見えるハードの道であったと思っております。

次のページ、これに加えて、2020年に関しては、電波の道、目に見えないものをしっかり残していこうということを、今、知事から宣言されております。これをTOKYO Data Highwayと呼んで、後の世の人に、2020大会以降で、いよいよ電波というもの、モバイルインターネットというものを重点エリアとして始めた元年だったと言われるような年にぜひしていきたいと思っております。

39ページ目でございます。そのために何をやるか。これも既に動き出しておりますので、皆さんにご紹介したいと思えます。

今、3つのアクションがございます。次に1つずつ説明させていただきます。

40ページ目でございます。1つ目は、東京都には都民からお預かりしているたくさんのアセット、土地とか建物、道路とかございます。今までは、こういったものを電波の基地局を作ったりWi-Fiに使うことはあまりやっていなかったのですが、やはり都民も7割から8割の方がスマートフォンとかモバイルインターネットを持っていらっしゃるのです。電波がつかないというのは、ある種、空気が薄いぐらいの非常にきつい環境だと思うのです。だからこそ都民のために、都民からお預かりしているアセットでちゃんと電波がつながるようにしようということを、今、一生懸命やろうとしております。

これまで、どうやら40局しか基地局がなかったらしいのですが、一気に約1万3000件の場所を携帯キャリアのほうに開放しております。問合せがあったらワンストップ窓口でサポートします。これはまだ実験を始めたばかりなのですが、今こういった取組を始めております。

次の41ページ目でございます。もう一つ、集中的にやる場所を作ってみようと思っております。1つ目が、まず「隼より始めよ」ではありませんが、西新宿、都庁の周りでいち早く未来のモバイルインターネット環境を作っていこうと思っております。ここを重点エリアにしていこうと思っております。

次の42ページ目でございますが、もう一つは都立大学で、5Gでどういうサービスが重

要なのかとか、セキュリティとか、いろんな研究の可能性がたくさんあると思いますので、こちらのほうも重点エリアとして設定してやっていこうと考えております。

次の 43 ページ目でございます。今後の課題としましては、5Gのことをどんどんやると、一方で、来年、オリンピック・パラリンピックでたくさんの海外からのお客様が来られます。やはり Wi-Fi がなかなかつながらないという声も時々聞いたりしますので、そういうことがないように Wi-Fi の整備を、特にオリンピックとパラリンピックの会場についてはしっかり準備していこうと今、思っています。

もう一つは、災害時のインターネットの活用です。やはり台風の時に私も大いに反省するところがありまして、いつでも、どこでも、誰もがという意味でいいますと、いつでもという中には、災害の時こそインターネットがつながることが非常に大事だと思います。インターネットの強靱化そのものも、このタイミングでしっかりやっていきたいと思っております。

災害の中で、先ほど知事からもちょっとご紹介がありましたけども、この前、ドローンによる救援物資の輸送を実戦投入の形でやらせていただきました。ありがとうございます。

こういった災害の時にどんどんインターネットを使っていこうということを、日本をリードしていく形で、これから取り組みたいと思います。

次に、デジタル人材の街について話をしたいと思います。

46 ページ目でございますが、今、東京都としても、ICT人材をもっと増やさないとはいえないと思っております。世界各国の主要都市で見ると、IT部門の職員の数が非常に少ない状態ですので、ここをちゃんと手厚くしていこうと考えております。

次の 47 ページ目でございます。最後に、東京をデータを使う街にどんどんしていこうと思っておりますが、その先には、SDGs が今、非常に重要視されておりますので、データを使ってSDGs にちゃんと取り組むような街にしていきたいと思っております。

例えば東京都でも、気候変動にどう取り組むかといったことが1つございます。これは環境庁で公開されている「2100年 未来の天気予報」というホームページですが、このまま行くと、こういう可能性があると言われておりますので、テクノロジーを使って、もっとも効率的な街を作っていくことを頑張っていこうと思っております。

最後に 49 ページでございます。東京を、データを使ってどんどん便利で快適な街にしていこう、加えて、SDGs にもしっかり適合した街にして、海外の先進都市の皆さんから、東京はやっぱりプロトタイプの街だよと言われるような街にしていきたいと思っております。

ます。

ご清聴ありがとうございました。

○多羅尾委員（副知事）

それでは、ただ今の宮坂委員の説明等につきまして、市町村の各委員の皆様からのご発言をいただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

○河村委員（奥多摩町長・町村会会長）

先日、ドローンによる救援物資の輸送を、実際に日原で140メートル上昇して、2キロの実証をやっていただきました。今回の補正予算の中で、島に配置し、そのための基礎的な調査をするという新聞発表がありました。これと同時に、ぜひ山の奥のほうも、次の段階でも結構でございますので、ご配慮いただけるようお願いいたします。

先日の実証では、画像が遠くから撮れるというのが非常に魅力的でございまして、私もでも災害時に活用したいと思っておりますので、副知事、どうぞよろしく申し上げます。

○宮坂委員（副知事）

しっかりと実証研究を進めて頑張っていきたいと思います。

○多羅尾委員（副知事）

ほかにいかがでしょうか。

○渡部委員（東村山市長）

今日は、貴重なお話を聞かせていただきましてありがとうございます。

先日、宮坂副知事がお見えになった際にも申し上げさせていただきましたが、今日も、これからの東京で、やはりIT部門の職員数のお話に触れていらっしゃいました。うちの市のような規模の小さい市では、IT部門の職員、専門的な知識や技能を持っている者がほとんどおりませんので、結局、民間のベンダーさんと何とか組んで、これからのデジタル化を進めていかなければならないということなのです。

これからお願いということになりますが、東京都で、全体の市区町村を含めて、IT人材の育成ということについてぜひ力を入れていただきたい。あと、なかなかすぐには自前で育てられない間、どうしても民間と連携を進めていかざるを得ないというか、民間の力を借りていくことが現実的だと思っています。その時も、どういうところと、どういう組み合わせをしたらよいのか。これは各市区町村、いろいろ試行錯誤しながらやろうとしているところはあると思うのですが、やはり全体的な絵柄を東京都が主導して、こういうところを注意しながら、こういうところについてより積極的に関わっていったほうがいいんじゃない

ないかというような技術的、専門的なアドバイスを各市にいただけると、各市区町村の人材育成とかデジタルトランスフォーメーションも進むんじゃないかと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○宮坂委員（副知事）

先日も、実は知事の発案もありまして、全ての市区町村のIT担当者の皆様と初めて一堂に会させてもらったのです。これまで、ややもすると、そういう交流が少なかったと聞いておりますので、その種を育てて、しっかり情報交換をやりたいと思ひます。むしろ私のほうも皆さんの話を聞いてすごく勉強になる点多かったので、あの場を大事にして育てていきたいと思ひます。ありがとうございます。

○多羅尾委員（副知事）

ほかにご発言いかがでしょうか。

○尾崎委員（東大和市長）

私は、全体的なことでお聞きしたいのですけれども、今回、こんな形で東京が「歴史的プロトタイプな都市になる」ということで、すばらしい都市になるかなと思ひているわけです。ただ、これとあわせて、監視社会になっていくのではないかなという思ひがすごくあるんですね。カメラと、AIと、5Gがあると、瞬時にしてどこに誰がいるなんていうのは分かる。そういう時代が来てしまうのではないかなと思ひます。

そういった意味では、東京都には、ITを使ってぜひ積極的に進めていただきたいというのと、あわせて、それに対してどう情報を制御していくか、コントロールしていくか、そちらのほうもぜひ知事には思ひっきり力を入れていただき、都民がどこにいても安心して生活できるような都市を目指していただきたい。「歴史的プロトタイプな都市」という中に、そういうものもたくさん入れていただければと思ひます。意見というか要望でございます。よろしくお願ひします。

○多羅尾委員（副知事）

ほかにご意見お願ひいたします。

○橋本委員（日の出町長）

今回の台風19号の災害を振り返ってみまして、町も20日間、400名あるいは214世帯の集落孤立化の被害を受けたわけですが、東京都の一丸となった取組に、私ども、非常に感銘を受けたわけでございます。災害対策本部を設置した時点から、今までにない、2名の都の職員の方に来ていただきました。そして、一緒になってその対応をご検討いただい

たわけでございます。その晩に都道 184 号線が決壊したということで、これはどうしたらいいのかと私どもは迷ったわけでございますけれども、そこに都の職員が 2 名いたということで、非常に迅速な処理ができました。

まず、100 名近い入所者の特別養護老人ホームがあるわけですが、この対応をどうするのか。水、救急車の問題、いろいろあったわけですが、相談した結果、自衛隊の派遣を要請したほうがいいんじゃないかという 1 つの指導もいただいたわけでございます。すぐに水道局、あるいは自衛隊のほうの配慮を迅速にやっていただきまして、次の日は自衛隊がヘリで来ていただいたというわけです。とにかく孤立した人たちの生命、財産を守っていかなきゃならないという考え方のもとに、一緒に動いていただきました。今までそういうことはなかったのです。

それが今回、各市町村に 2 名ずつ、都の職員に来ていただいて、いろんな配慮をしていただいた。これが大きな功を奏しました。20 日間の集落孤立化を招いたわけですが、知事さんも来ていただいて、現場でいろいろアドバイスもいただいたわけです。おかげさまで迅速に災害に対する処理ができました。

各市町村にとっては、技術的なことでなかなかできない面も多々あるわけですので、ぜひともこれを 1 つの契機に、これからもご指導いただければありがたいと考えております。

今回を振り返ってみて、昔から初動体制、「火事は最初の 5 分」、あとは言いませんけれども、そういうジンクスがあるとおり、まず初期の段階でそういう対応をしていただいたということは、私は非常にありがたく思っている次第でございます。

多くの都の職員の方には現地に来ていただきまして、励まし、いろんなアドバイスもいただいたことに対して、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げる次第でございます。大変どうもありがとうございました。

○多羅尾委員（副知事）

ほかによろしいでしょうか。

それでは、最後に会長からご発言をお願いいたします。

○会長（小池知事）

日の出町長のほうからも、先だつての台風の際、都庁のほうからそれぞれリエゾンを送らせていただいたという点に触れていただきました。そうやって人と、それから最新の情報通信と、この両方の合わせ技で、安心・安全、かつ国際競争力のある東京にこれからも努めていきたいと思っております。

また、IT関係のことにつきましては、それぞれの皆様方の地域のニーズと、東京都でこれから進めていくシステム作りに必要な人材、無駄がなく、かつ、うまく連携できるような形をとっていきたいと考えております。それによって、都民の皆様方の利便性が更に上がることと、コストを削減していく、この両方が叶えられるように努めていきたいと考えております。

そして、今回、宮坂さんに副知事に来ていただきましたので、ITについては、これからは皆さん、ご質問がありましたらどうぞ遠慮なく都のほうにお知らせいただければよろしいかと思っております。いつでもご連絡ください。

最後に、宮坂さんが最後に示されましたように、東京の最大の戦いは気候変動との戦いで、小笠原は涼しいということが分かりましたよ。38度だと書いてありますから。これからは経済もそうですし、気候変動についてもなかなか予測がしがたいということではございますけれども、東京、まさしくワンチームでしっかり取り組ませていただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、実りある都と市町村の皆様方との協議会、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

○多羅尾委員（副知事）

本日は本当に様々なご意見ありがとうございました。

これで閉会とさせていただきます。

（了）